

## 福井県越前市におけるトゲミズギワカメムシ *Saldoidea armata* Horvath, 1911 と モンシロミズギワカメムシ *Chartoscirta elegantula* (Fallen, 1807) の記録

松島 良介\*・藤野 勇馬\*\*

Records of *Saldoidea armata* Horvath, 1911 and *Chartoscirta elegantula* (Fallen, 1807) (Hemiptera: Saldidae)  
from Echizen city, Fukui Prefecture, Honshu, Japan

Ryosuke MATSUSHIMA\* and Yuma FUJINO\*\*

(要旨) 福井県越前市においてトゲミズギワカメムシおよびモンシロミズギワカメムシを採集したため、  
同市初記録として報告した。また、中池見湿地における現在の両種の生息状況もあわせて報告した。

キーワード：ミズギワカメムシ科，水生昆虫，水生カメムシ

ミズギワカメムシ科 Saldidae は水田や池沼，河川，海岸の岩礁など様々な水域の水際に生息する水生カメムシであり，頻繁な跳躍と短距離の飛翔により素早く活発に動く。国内においては現在までに 8 属 24 種が報告されている（林・宮本，2018）。福井県からはトゲミズギワカメムシ *Saldoidea armata* Horvath, 1911，モンシロミズギワカメムシ *Chartoscirta elegantula* (Fallen, 1807)，コミズギワカメムシ *Micracanthia ornata* (Reuter, 1881)，ミズギワカメムシ *Saldula saltatoria* (Linnaeus, 1758) の 4 種が記録されており，加えて福井市国見岳における風力発電事業の環境アセスメント調査においてエゾミズギワカメムシ *S. recticollis* (Horváth, 1899) が採集されている（岸本・佐々治，1998；二枚田風力合同会社，2023）。

筆者らは越前市内において，トゲミズギワカメムシおよびモンシロミズギワカメムシを採集しているため同市初記録として報告する。また，両種の生息が確認されている敦賀市中池見湿地における現在の両種の生息状況もあわせて報告する。

なお，同定は林・宮本（2018）に基づいて行い，採集および標本の保管は松島が行っている。

トゲミズギワカメムシ *Saldoidea armata* Horvath, 1911  
越前市上四目町，4exs., 11-VIII-2024；同所，3exs.,  
12-VIII-2024. (図 1)

モンシロミズギワカメムシ *Chartoscirta elegantula*  
(Fallen, 1807) 越前市上四目町，2exs., 12-VIII-2024  
(図 2)

両種とも水田付近を緩やかに流れる素掘りの浅い水路において，畦畔植物の根際の湿った泥上を歩行していた。トゲミズギワカメムシについては同時に幼虫も数個体確認された。水路の畔は毎年 4 月上旬と 8 月上旬に草刈りが行われ，枯草が堆積した環境である（図 3）。同所的にケシミズカメムシ *Hebrus nipponicus* Horvath,



図1-2 1：トゲミズギワカメムシ *Saldoidea armata* Horvath, 1911；2：モンシロミズギワカメムシ *Chartoscirta elegantula* (Fallen, 1807) (スケールバーは1.0mm)。



図3 越前市におけるトゲミズギワカメムシおよびモンシロミズギワカメムシの生息環境。

\*株式会社ニデック 〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜34-14  
NIDEK Co., Ltd., 34-14 Maehama, Hiroishi-cho, Gamagōri City, Aichi 443-0038, Japan  
\*\*NPO法人 中池見ねっと 〒914-0005 敦賀市檜曲79号奥堀切  
Nakaikemi-Net, Okuhorikiri 79 Kashimagari, Tsuruga city, Fukui 914-0005, Japan

1929やメミズムシ *Nerthra macrothorax* (Montrouzier, 1855) も採集された。

県内において、トゲミズギワカメムシは敦賀市中池見湿地から1頭、モンシロミズギワカメムシは勝山市池ヶ原から2頭の標本に基づいて記録されているのみである(岸本・佐々治, 1998)。著者の藤野は中池見湿地において、2地点でトゲミズギワカメムシを記録しており、湿地北西部の「北七曲」では2019年7月14日に幼虫1個体、湿地中央南側の「三ツ又」では2019年8月4日に成虫2個体、同年9月14日に成虫1個体と幼虫1個体をそれぞれ撮影している。両地点ともアゼスゲを主体とする低茎草地で、本種のほかケシミズカメムシやメミズムシなどが記録されている。本種は2019年以来生体が見つからないが、北七曲の地点についてはイノシシによる掘り返しの減少により植生遷移が進んだことがその原因と考えられる。ただし三ツ又の地点については大きな景観の変化はなく、本種の生息が確認できなくなった理由はよくわからない。モンシロミズギワカメムシはこれまでに3地点で記録されており、2019年1月19日には三ツ又のマコモヤコガマが生える湿地の辺縁で成虫1個体、2019年8月12日には湿地中央部「分田」の草丈の低い水田雑草で覆われた休耕田で成虫1個体と同種と幼虫1個体、2020年12月21日には湿地東部「後谷」の休耕田付近において、積雪上で静止する成虫1個体が撮影されているほか、その後も各地点でしばしば生体が目撃されている。

## 謝辞

末筆ながら、越前市における生息地の管理方法についてご教示くださった福井県の日谷政信氏にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 岸本 修・佐々治 寛之, 1998, カメムシ目 HEMIPTERA. 福井県自然環境保全調査研究会編, 福井県昆虫目録第2版, 福井県県民生活部自然保護課, 64-95.
- 林 正美・宮本正一, 2018, ミズギワカメムシ科 Saldidae. 川合禎次・谷田一三編, 日本産水生昆虫科・属・種への検索(第二版), 409-419. 東海大学出版部, 秦野.
- 二枚田風力合同会社, 2023, (仮称) 国見風力発電事業環境影響評価書, 縦覧版, 資料編.